２０２６ 年10月５日
東日本旅客鉄道株式会社
ＴＯＰＰＡＮ 株式会社

JR 大月駅へ
非通信型自動通訳ディスプレイ「UCDisplay®LIVE」
を導入します

○ 東日本旅客鉄道株式会社 山梨事業本部（本部：山梨県甲府市、執行役員 山梨事業本部長：石塚 隆志）と、TOPPAN 株式会社（本社：東京都文京区、代表取締役社長：野口 晴彦）は、JR 大月駅みどりの窓口に非通信型自動通訳ディスプレイ「UCDisplay®LIVE」を導入します。

○両社は、訪日外国人のお客さまへのサービス向上を目的として、2026 年 3 月から複数回にわたり共同実証実験を実施してきました。その結果、多言語による円滑なコミュニケーションの実現や、窓口応対業務における有効性が確認されたことから、このたび JR 大月駅みどりの窓口への正式導入に至りました。

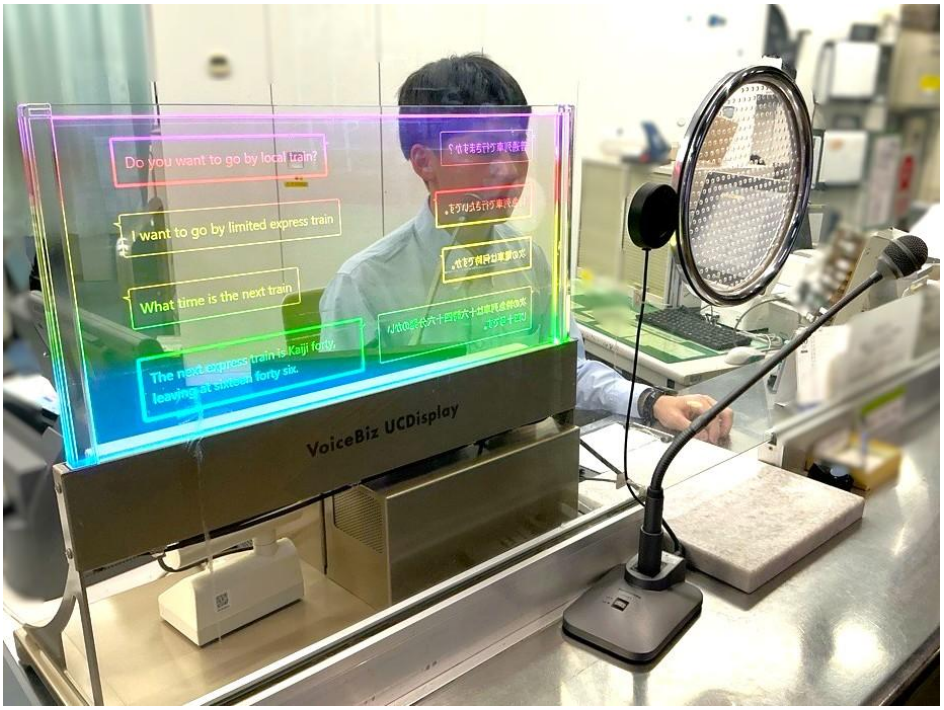
○なお、「UCDisplay®LIVE」の鉄道会社への導入は今回が初※の事例となります。

○富士山・河口湖エリアへの玄関口である JR 大月駅において、多言語によるスムーズなご案内を実現するとともに、均質なサービスの提供と社員の応対負担軽減を図り、お客さまサービスの向上を目指します。

※「鉄道会社初」とは、TOPPAN の非通信型自動通訳ディスプレイ「UCDisplay® LIVE」を鉄道会社で初めて導入した事例です。

1 概要

■運用開始日：2026 年 10 月 5 日（月）
■設 置 場 所：JR 大月駅 みどりの窓口
■設 置 台 数：1台



2 導入の背景

近年、訪日外国人のお客さまの増加に伴い、大月駅では多言語によるご案内ニーズが高まっています。特に富士山・河口湖方面への玄関口である大月駅では、富士急行線への乗換案内や特急列車の利用案内など、専門性の高いご案内を行う機会が多く、複雑な内容を正確かつ迅速にお伝えすることが求められています。このような背景から、より円滑にコミュニケーションを実現するため、TOPPAN と共同で実証実験を行い、その成果を踏まえて「UCDisplay®LIVE」の正式導入に至りました。

3 UCDisplay®LIVE の特徴

・発話内容をリアルタイムで翻訳表示し、円滑なコミュニケーションを実現

・インターネット接続に依存しない非通信型のため、安定した運用が可能

・16 言語に対応し、幅広い訪日外国人のお客さまへのご案内に活用可能

＊対応言語：日本語、英語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、韓国語、インドネシア語、タイ語、ベトナム語、ポルトガル語（ブラジル）、スペイン語、フランス語、フィリピン語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語、ウクライナ語

4 今後の展開

今後も多様化する訪日外国人のお客さまのニーズに対応し、駅サービスのさらなる向上と案内品質の向上を図ります。また、TOPPAN 株式会社と連携して運用効果を検証しながら、より快適で利用しやすい駅サービスの実現を目指します。

※2026年9月末現在の情報です。掲載写真はすべてイメージです。